令和5年度　大田区立西六郷小学校　自己評価　報告書

令和6年2月6日

○　本校の概要

・校内研究の成果を活かし、豊かなかかわり合いの中で、学ぶ楽しさ・成長の喜びを実感できる学校を創ります。
・「スクールサポートにしろく」と連携し、学校のニーズに合わせた授業保補助や環境整備を行い、充実した教育活動を展開します。
・「歌声の響く学校」の伝統を継承し、音楽の力で豊かな感性と素直な心を育みます。　　・縦割り班活動や学校行事、スポーツテストなど、子ども同士が交流する機会をとおして、よき校風を継承します。
・体育の学習を中心に、なわとび月間や持久走月間、早寝早起き朝ご飯の取組などを関連付けて、体力向上・健康の保持増進を図ります。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組…○ 今後の改善策…◇	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	児童アンケート「すすんで友達と考えを伝え合っている」の設問に対して「よくできている」「できている」と回答した児童の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	3	○体育の校内研究では、豊かなかかわり合いをテーマに、チームやトリオ（3人組）、ペアなどによる学び合いの時間を設定し、学習資料やICTを活用して互いも動きを見合ったり作戦を話し合ったりできるようにした。 ◇外国語教育指導員の活用については委託業者に学校の要望を伝え、学習資料の準備や児童とのコミュニケーションをさらに充実させ、海外の文化やネイティブな発音に触れるよさを活かした授業を進めていく。 ◇大田区の新教科「おおたの未来づくり」の研究・実践をとおして、情報活用能力や自分の考えを表現する力を学年に応じて計画的に高めていく。	A	5	○体育の校内研究の成果を様々な学習に広げ、かかわり合いながら学んでいってほしい。 ○情報活用能力や表現する力はとても大切なので、今後の新教科「おおたの未来づくり」に期待する。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3					B	4	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 3:70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 2:60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 1:60%未満であった。	3							
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3					C	0	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3					D	0	
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	学校公開アンケート「子どもたちにとって分かりやすい授業をしていたと思う」の設問に対して「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した保護者の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	4	○大田区学習効果測定や日常の学習状況を基に児童の学習面の課題を捉え、授業改善推進プランを作成し2学期からの授業実践に活用した。 ◇1学期の3者面談では児童用タブレット端末を活用して算数の学習状況を知らせ、学習到達度と共にICTの活用状況について保護者に分かりやすく知らせる。 ◇高学年の教科担任制を社会と理科の授業交換をするなどしてできるところから行い、児童理解と分かりやすい授業づくりを推進する。	A	6	○タブレット端末を活用して今後も学力向上に期待する。その反面、活字離れが進まない様に注意してほしい。 ○先生方は児童一人一人への対応を頑張っていると思う。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3					B	3	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	3					C	0	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3					D	0	
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	児童アンケート「自分にはよいところがある」の設問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	4	○縦割り班で行うチーム集会やわくわくフェスティバルを充実させ、児童自身が計画したことを実現する楽しさや、みんなのために力を発揮し、支え合う喜びを味わえるようにした。 ○運動会や学芸会では全校児童が会場にそろい、互いの発表を見合うかたちを復活させた。行事後に感想を交流することで、互いのよさを認め合い価値付けし、達成感を高めることができた。 ◇児童の不安や悩み、生活指導上の課題、個に応じた支援の在り方についてはケース会議や校内委員会で話し合い、毎週の生活指導連絡会で情報共有しているが、適切な方法で情報を保存し、次年度にも引き継げるようにしていく。 ◇休み時間や校外学習などをとおして、特別支援学級と通常級の児童の交流の機会を充実させる。	A	7	○学校での異学年の交流が卒業後も世代間の交流に役立っているので、今後に期待する。 ○自己肯定感は小学生時代にしっかり高めてほしい。 ○道徳の授業で内面的な資質の向上、保持ができるとよい。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3					B	2	
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3					C	0	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3					D	0	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	3							
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	児童アンケートで「運動やスポーツをもっとしたい」の設問に対して肯定的な回答を選んだ児童の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	3	○体育の授業づくりについて研究を深めたことで、技能の高まりだけでなく、励まし合いや教え合いのよさが表れ、多面的に「できる楽しさ」を味わう姿が見られた。 ◇大田区小学生駅伝大会への取組を校務分掌に位置付けたり、始業前の時間の計画を見直したりして、教育活動全体で体力向上をさらに推進していく。	A	6	○運動することが得意な子、得意としない子がいると思う。誰もが参加しやすいスポーツを取り入れることを検討してほしい。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3					B	3	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3					C	0	
		児童一人一人が「できた」を実感できるよう、体育の授業改善を進めている。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3					D	0	
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	保護者アンケート「学校は、教室や校舎内外の環境を整備するなどの子どもの安全確保のための取組を行っている」の設問に対して「よく行っている」「行っている」と回答した保護者の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	3	○校内施設の安全点検を全教員で確実に実施し、不具合がある場合には用務・事務と連携して迅速に修繕するようにした。 ○指導教諭の模範授業や理科指導専門員の指導助言により学んだことを全教員に紹介し共有した。 ○食物アレルギーを含む健康面の配慮と対応について、年度当初や水泳指導前などに養護教諭が中心に適時研修を行った。 ◇各担任や専科担当の週案をもとに教員が相互に授業参観を進め授業改善に活かすようにする。 ◇校庭に釘やマーカーなどを打つ場合は、その位置を図面に記し、使用期間後は確実に撤去するようにする。	A	6	○用務主事がとても熱心に仕事をされていて、校内はとてもよく管理されている。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3					B	3	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3					C	0	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	3					D	0	
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	3	保護者アンケート「学校はスクールサポートにしろくを活用し、授業を支援したり環境を整えたりするなど、子どもの育ちを支える仕組みをつくっている」の設問に対して「よく当てはまる」「当てはまる」に回答した保護者の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	3	○「スクールサポートにしろく」のはたらきにより、授業支援や図書室の整備、夏のわくわくスクールの運営など、保護者や地域の教育力を学校の要望に合わせて活用することができ、教育活動を充実させることができた。 ◇地域の教育力を活かした授業について、各学年・専科が情報を整理・保存し、今後の教育活動に有効活用できるようにする。 ◇タブレット端末の持ち帰りが意義あるものなるよう、家庭での活用の仕方について学年ごとに情報を整理する。また、学校に置いておく教科書・教材を明確にして登下校の負担にならないようにする。	A	5	○地域行事やPTA活動が徐々に戻ってきているが、一度活動の休止期間があると、修復するのに時間を要する。「スクールサポートにしろく」を活用しての夏のわくわくスクールを実施しているが、保護者の方にも参加していただき、児童と一緒に楽しんでいただけたら有難い。 ○学校が「スクールサポートにしろく」を活用していることをもっと保護者に伝える努力をしてほしい。コーディネーターの頑張りが保護者に伝わっていないのが残念。 ○青少対としても「スクールサポートにしろく」に協力している。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3					B	3	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3					C	1	
		タブレット端末を家庭に持ち帰らせ、家庭学習に活用したり、学校と家庭で同時双方向のやりとりができるような基盤をつくったりしている。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3					D	0	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。